

共有される安全保障のための軍縮 カトマンズ宣言（抜粋）

2009.7.11

ネパール・カトマンズ 2009年7月11日 我々、世界の諸宗教の青年リーダーは、ここカトマンズに集った。互いに学び、話に耳を傾け、討議をするためだけでなく、行動するために、「青年宗教者による共有される安全保障のための国際軍縮サミット」を開催した。

我々は、グローバル・キャンペーンをスタートさせることを決め、それぞれ帰国の途に就く。

キャンペーンには、二つの柱がある。一つは、各国政府に、軍事と武器にかかる費用を削減させ、開発に振り向けるよう要請すること。もう一つは、核兵器廃絶のためのアドボカシー（政策提言）を行うことである。

我々がネパールに集ったというのは重要なことである。ヤダブ大統領が開会式で話したように、ネパールは平和の王子として知られるブッダの生誕の地であり、諸宗教を調和させた長い歴史を持つ国ではあるが、同時に今、武器を用いた暴力に直面している。この暴力は、生命を脅かし、安全と平和に向かうために必要な社会的安定をコミュニティから剥奪している。

このような中で、我々は緊急のプライオリティー（優先課題）である軍縮活動の必要性をさらに強く認識した。我々青年は、武力紛争における無辜の犠牲者と兵士に思いを寄せるものである。我々は新しいミレニアム（千年紀）に生きている。このミレニアムは、新しい平和の時代を、我々すべてが自由で恐怖のない地球村に参加しているという約束をもたらしてくれるはずであったが、最初の何年かは、新しい戦争、軍事費の増加、銃による暴力の増加、恐怖や不信の増長という事実と直面している。NPT（核不拡散条約）は、我々が生まれる前に合意された。しかし、我々が大人になってもなお、核兵器は依然として存在し、さらなる脅威を増しているのである。

我々は、軍縮のすべての問題に共通していることは、政府が開発や平和構築ではなく武器にお金を費やしていることだと考える。平和構築の重要な要素として、軍備の生産や流通の制限が必要だ。2008年の全世界の軍事費は、過去最高の1兆4640億ドルであり、これは国連ミレニアム開発目標（MDGs）を達成するために1年間に必要な費用の10倍である。世界経済が低迷し、世界人口の大多数が極度の貧困下で暮らしているにもかかわらずの数字である。

軍事費は通常、安全保障のための選択であると説明される。しかし、我々は、兵器の費用は、真の共有される安全保障と対峙するものであると世界の指導者に訴えたい。我々の政府が兵器の開発のために費用を使い、教育に使用しない時、将来の安全保障する可能性からは離れていくことになる。新しい銃を購入するために費用を使い、地雷除去のために使用しない時、政府は不必要な死を招くことに貢献していることになる。政府が巨大な軍事産業の維持のために費用を使い、国家債務の返済に使用しない時、世界は安定と安全からさらに離れることになる。我々はこの不均衡を是正し、あらゆる種類の武器の費用を持続的な平和をもたらすための開発に振り向けるよう、指導者の意識を転換していく必要がある。

世界の宗教コミュニティは、この変革に向けたアドボカシーに、非常に重要な役割を果たすことができる。それぞれの宗教は、精神的な伝統や道徳的な価値、そして最も歴史のある大きな社会ネットワークを有している。それぞれの宗教コミュニティに積極的な声があるように、我々は、これらのネットワークを活用し、軍縮活動のために働くという宗教伝統の中に、生命や人間尊厳の共有される価値を描くことができる。

我々の世界は、核兵器の拡散、クラスター爆弾や地雷、その他の通常兵器の継続的な使用と向き合っている。これらはすべて、脅威の様相を呈しているが、我々は軍事費の継続的な増加、それに関連して顧みられないでいる開発、そして暴力と戦争に宗教が悪用されることに挑戦する。我々は、政府の指導者に、すべてのレベルで軍事費を削減し、核兵器や通常兵器の脅威を取り除くことに取り組み、コミュニティの安全構築のために資源を使うことを呼びかける。

指導者は、これ以上、武器を持たず、武器を開発しないで、脅威に対応できる安全な方法を開発しなければならない。我々は、また、ネパールならびに世界の青年に、平和のための我々の活動に参画するよう求める。我々の行動は、教育とアドボカシーである。地方において、我々は、軍事費とすべての武器がどのような脅威を持っているかについて、コミュニティで啓発活動を行う。これらのコミュニティの声を地球社会に反映しながら、我々はWCRP国際ネットワークや平和市長会議、国際平和ビューローが行っている国家レベル、国際レベルの政策決定者に対するアドボカシーに参画する。そして、我々は、米国のオバマ大統領が最近提唱した2010年3月の地球核兵器サミット、2010年5月に国連で開催されるNPT再検討会議、2015年に最終年を迎える国連ミレニアム開発目標(MDGs)を、我々の行動の重要な局面として位置づけるものである。我々一人ひとは、このサミットに刺激を受け、ローカルレベルから

グローバルレベルまでの具体的な行動に踏み出すために、ネパールから出発する。すでに、ここネパールから、サミットでの重要な動きが始まっている。増長する暴力の文化から、ネパールの平和の文化への復興が、青年とともに開始された。我々は、ネパールの兄弟姉妹の活動を支援する。我々は共に、世界の優先順位を、武器から開発、安全、平和のための真の資源に転換していく。